



みなさん、こんにちは。「静岡大学ゆかりの会」事務局です！

2015年からスタートした、“Asia Bridge Program”（通称：A B P）が今年10周年を迎えます。今回も前回に引き続き、このプログラムの卒業生に、A B Pでの思い出や、このプログラムの魅力などのインタビューをお届けします。（前回の前編もご覧ください！）

【Asia Bridge Program 10周年記念特集】（前編）は [こちら](#)

取材したのは、2018年にA B Pの入試を受験し、工学部機械工学科に入学、2022年に静岡大学を卒業、現在は静岡県湖西市にある株式会社ユニバンスで働いているイプトゥ アデリアン ワルテリカさんです。A B Pに応募した経緯や、なぜ日本に留学したかったのか、現在のお仕事のやりがいやさらに今後の夢まで、たくさんお聞きしました！



<イプトゥ アデ リアン ワルテリカさん>

株式会社ユニバンス 商品開発部 商品設計グループ。インドネシア、バリ島出身。2018年静岡大学のA B Pで工学部機械工学科に入学し、2022年卒業。奥様は現在静岡大学A B Pの修士課程に在籍しており、夫婦で静岡大学とご縁がある。昨年11月に男の子が生まれ、現在10か月。2人で育児を楽しんでいる。

---

——アデさんは、株式会社ユニバンスという会社で働かれているとのことですが、今はどんな仕事をしているのですか。

(アデさん) ユニバンスは、自動車部品メーカーです。今、私は商品開発部の商品設計グループに所属していて、ギアボックスの歯車の設計担当として、専用のソフトを使いながら、オフィスで仕事をしています。在宅勤務もできるので、よく浜松キャンパスには妻と子どもと遊びに来ているんですよ。

最近では、自動車の電動化が進んでいます。自動車といっても、人が乗る乗用車だけではなく、マイクロモビリティなどを作る会社が増えてきました。最近では、街中にあるスケートボードのようなものが有名ですね。昨年には、マイクロモビリティで使われる商品を、試作

から製品ができあがるまで、ゼロからすべて任せてもらえる仕事をしました。

—わあ、すごいです！これからマイクロモビリティは、高齢社会やバスの運転士不足などで、ますます必要になってきそうな移動手段ですね。製品をゼロから作る設計は、どうやって仕事を進めていくのですか。

(アデさん) まずは、お客様の要望を聞きます。どんな性能のものが欲しいのか、という要望を聞き取った上で、「このぐらいの大きさの歯車でしたら、要望している車の性能を満たせますよ」といったように、お客様に提案していきます。その後、自分で設計をしますが、そのあともずっとお客様とはコミュニケーションを続けながら、仕事を進めていきます。そうやって完成した歯車は、まるで自分の子どものようなですね。



—自分の書いたものが、立体的な完成品になると、感動しますね。アデさんはそんなお仕事のどんなところにやりがいを感じますか。

(アデさん) やはり設計は、本当に何も無いゼロの状態から1つのものを築き上げるというのがやりがいのある仕事だと感じています。ゼロから仕事を任せていただいたとき、自分の書いた設計書をもとに、完成品が出来上がったのを見た瞬間には、「わあ！これだ！」と

思わず言ってしまいました。（笑）

——とってもやりがいのあるお仕事をされているんだということが伝わってきました。

アデさんは、工学部機械工学科を卒業されていらっしゃるんですが、ABPで学んだことの中で今のお仕事に活かされていることはありますか。

（アデさん）1年生の時に、1年間かけてロボットを設計して、制作して、動かすという授業（「工学基礎実習」、「創造教育実習」）がありました。その当時は、大学卒業後どんな仕事に就きたいかというのが、正直まだあやふやだったんです。でも、この授業で設計の魅力を知って、そこからずっと設計をやりたいと考えるようになりました。

ほかにも、袴田先生の「日本事情」という授業で、日本で生活するためのマナーなどを学ぶことができましたね。日本の常識は、どこにも書かれていないルールみたいなものだったので、困ることもよくありました。例えば、日本人と直接喋るときの声の大きさや、日本人の方に物事を伝えるときのコツなどですかね。この授業で日本での常識を教えてもらい、大変助かりました。

——日本で暮らすうえでのマナーや文化なども、専門的な授業と一緒に受けることができたんですね。日本で働くうえでの常識や、工学の知識も学ぶことができ、今のお仕事に活かされていますね。もしよかったら、アデさんの今後の夢を教えてくださいませんか。

（アデさん）そうですね。ゆくゆくは、インドネシアに戻って知事を目指したいと思っています。日本に来てみて、本当に生活が便利だと感じました。日本のこの環境をそのままインドネシアに持っていきたいと思っていますぐらいです。インドネシアでは、公共交通機関なども充実しておらず、道もかなり混んでいて、整備が進んでいないんです。ゴミも焼却する技術がなくて、集めたあとは積み上げて山のようになり、問題になっています。そんなインドネシアをもっと良くするために、今は、日本で働いて日本人の良いところを吸収して、インドネシアに持って帰りたいなと考えています。

——わあ！すごい！静岡大学卒、初インドネシアでの知事、ぜひなってほしいです！最後に、これから日本にくる未来の留学生に一言お願いします。

(アデさん) 日本に来たらぜひ日本の全てを吸収して、できれば自分の国に戻った時に、その経験を活かしていってもらえたらなと思います。プログラムの名前にも「ブリッジ」がついていますからね。そして、せっかくですから日本の食べ物、文化、音楽など、すべての生活を楽しんでもらいたいです。

——アデさんから母国を良くしたいという気持ちが伝わってきました。今日はありがとうございました！



ときどき家族でキャンパスに遊びに来ているそうです！

////////////////////////////////////

今回の号では、A B Pで学び、静岡で働き、そしてインドネシアで知事になるという夢を持つ、アデさん取材しました。静岡大学で学んだ様々なことが、アデさんの今のお仕事に活かされているというのが、インタビューからひしひしと伝わってきました。また、頑張り屋さんで、明るいお人柄が、お客様からも会社からも信頼されている理由なのだと感じました。

A B Pでは、今後もアジアからの留学生を受け入れ、アデさんのように静岡県内企業とアジ

アを中心とする海外で活躍する人材の育成を実施してまいります。

(撮影) 松本晃輔・静岡大学総務部広報・基金課

(取材) 大澤明梨・同上



アジアブリッジプログラム(ABP)は、2024年度までに430名以上の学位を取得した留学生を輩出しました。ABP10周年記念事業は、卒業した留学生、在校生、産学官関係者のコミュニティ形成を目的としています。知識と人材の循環を高め、企業の海外展開や、地域の多文化共生社会における留学生人材のさらなる活躍を促進し、ABPの地域社会へのインパクトの向上に努めます。

ABP10周年記念事業として、2025(R7)年度、様々なイベントを展開します。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。



静岡大学未来創成基金では、国際交流に関する寄附を受け付けております。国際交流事業への支援を目的にご寄附いただく場合には、「A 1 大学運営全般」を選択いただき、お申込みください。

— リンク一覧 —





◇お問い合わせ

静岡大学 広報・基金課 基金係

TEL:054-238-5183

Email:yukarinokai@adb.shizuoka.ac.jp

※本メールマガジンを無断転載することは禁止されております。

※メールマガジン ニュース・イベント投稿フォームは [こちら](#)から

※メールマガジンの配信停止（ゆかりの会の退会）は [こちら](#)から